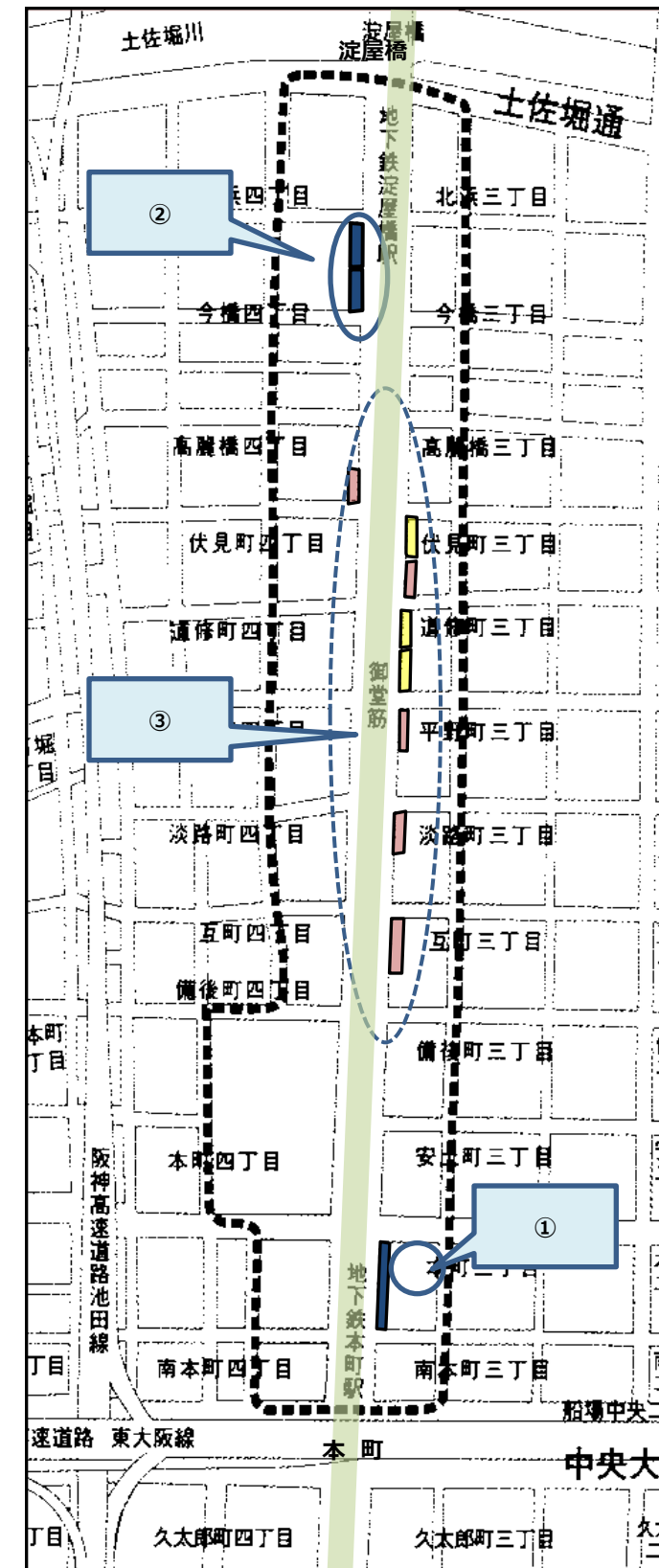


にぎわい空間形成の取組みの一環として、土日や夜間の人通りが少ない御堂筋（淀屋橋～本町間）において、4メートルのセットバック空間をはじめとするオープンスペース等を活用し、**上質なにぎわいを可視化する実証事業を民間主体で実施**

沿道企業をはじめ御堂筋（淀屋橋～本町）に関わるすべての人に対して、これからの御堂筋にふさわしい「上質なにぎわい」を可視化し、**具体的イメージを共有**

	オープンスペース	にぎわい事業の内容
①	本町ガーデンシティの1Fアトリウム（屋内公共空間）	「にっぽんこうばいパビリオン」と題したポップアップストアが期間限定で出店 期間：9/20（金）～10/20（日） 11時～21時
②	淀屋橋odona前のオープンスペース	大阪マルシェほんまもん（毎週水曜日に開催中）がデザインアップ（テント・陳列等）してリニューアル 特別開催：10/11（金）、12日（土） 14時～19時
③	淀屋橋～本町間のオープンスペース（調整中）	「ワイン&デリ」と題して、キッチンカー等が展開。歩くストリートとして、上質なにぎわい賑いを体験 期間：10/10（木）～12（土） 17時～21時

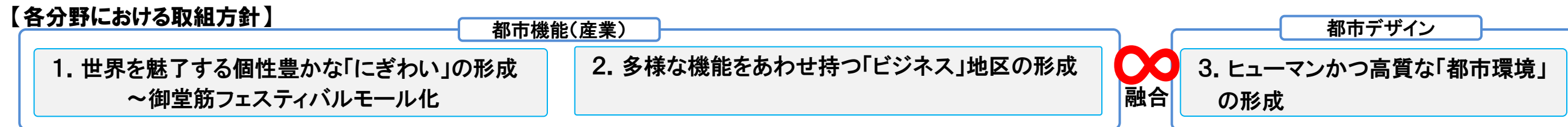
実証事業実施期間中は、御堂筋まちづくりネットワークが開催する「御堂筋AUTUMN GARALLY 2013」もあわせて予定（10/3（木）～18（金））



- グローバル化や少子高齢化社会の進展、都市間競争の激化など、都市を取り巻く状況が大きく変化中、大阪の成長に向けてはそれを牽引する都心の活性化が不可欠であり、そのためには、これからの都心では、高度かつ多様な都市機能の集積や安全・安心への対応と圧倒的な都市魅力の創出につながる高質な都市デザインを備えた都市空間を構築していくが必要である
- 大阪駅周辺地区や中之島地区など周辺地区では開発の進捗に伴い高層化が進展するとともに、御堂筋では沿道の隣接街区においても都心居住の進展に伴い高層化が進む中、沿道では、建替えが進まず、淀屋橋～本町間のまちなみは31mと50mの建物ラインが混在し、周辺との埋没感が否めない状況にあり、キタとミナミを結ぶ大阪都心の中央に位置しながら、そのポテンシャルが充分発揮されていないと認識している。
- 建替えが進まない要因の一つには、淀屋橋～本町間でスカイラインの形成をめざした現行基準がビルの高規格化や多様化に対応しづらい形態規制であることが挙げられ、特に、昨今、うめきたなどの周辺開発が進む中、沿道の相対的地位が一層低下している状況にある。
- こうした状況を踏まえると、先達が御堂筋を建設した時代の理念に立ち返り、50年単位の時間軸で、次世代の御堂筋を考える必要があり、御堂筋への開放感を意識したこれまでのスカイラインの形成から、50mの軒線の統一・壁面の連続性やデザイン性を意識したまちなみの形成へと方向転換するなど、長期的な戦略としての将来像の設定と、伝統を継承しつつそのポテンシャルを最大限を活かす観点から、規制誘導方策の抜本的な見直しを行うものである。

【コンセプト】 大阪の伝統と革新がうみだす世界的ブランド・ストリート ～歩いて楽しみ、24時間稼働する多機能エリアへ

- 【今後の御堂筋の方針】 1. 安全・安心かつ複合的な都市機能を備えたまちへ 2. 御堂筋の強みをより発揮した大阪の顔にふさわしい世界的なまちへ



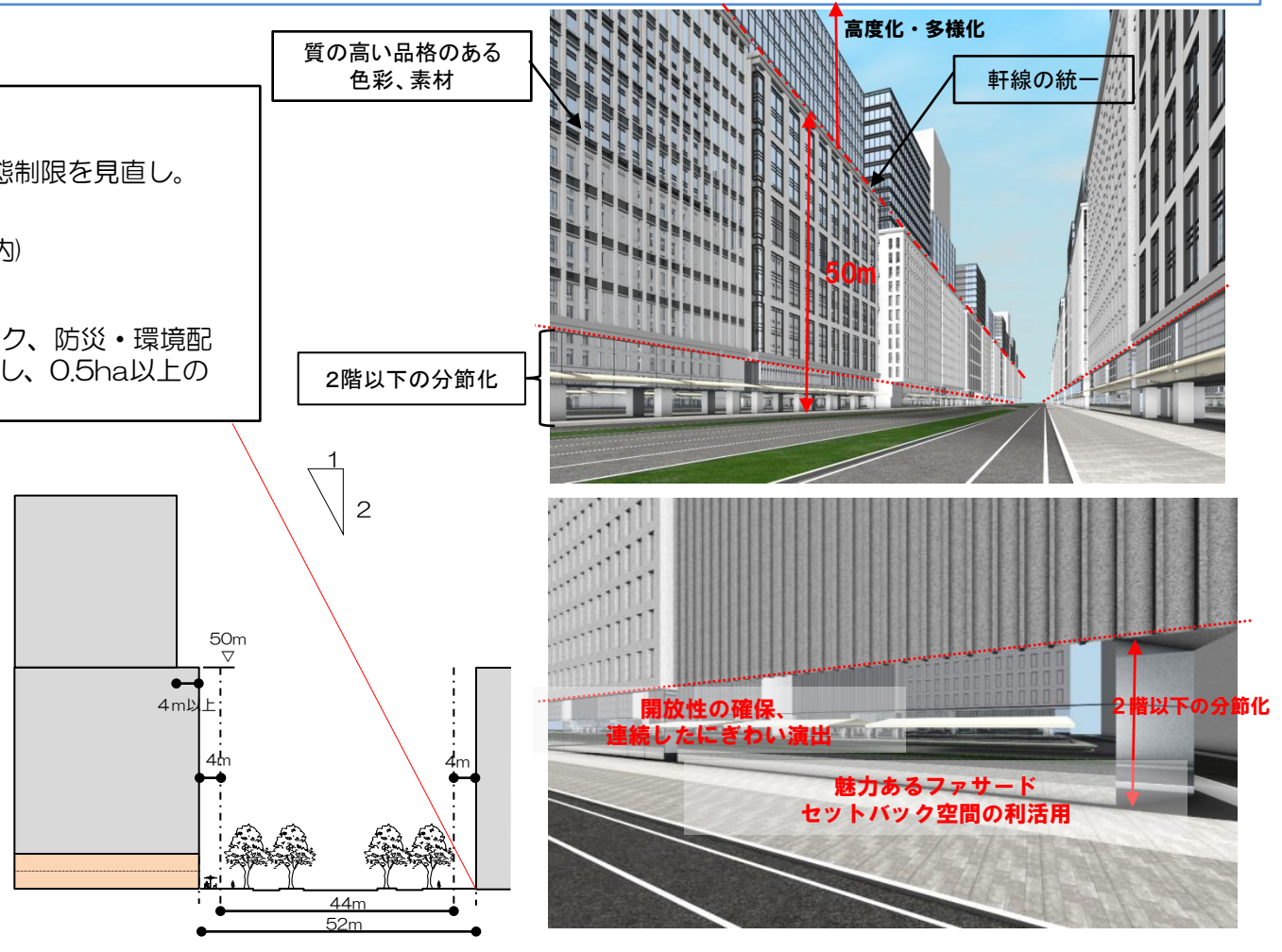
【誘導方策】 (淀屋橋～本町) (基本的な方向性) 高度かつ多様な都市機能の集積と高質な都市デザインを備えた次世代の御堂筋の実現をめざす
～沿道の有するポテンシャルを活かした経済性の発揮とスカイラインの形成から50m軒線の統一の継承へ～

●御堂筋のポテンシャルを最大限活かす

- ①形態制限：民間の自由度確保に向け形態制限を緩和
 - 建替えに併せてオフィスビルの高規格化・複合用途化など、民間の自由度が確保できるよう形態制限を見直し。
D:H=1:1 (50m部分後退距離10m以上、最高高さ60m以下)
→50m部分後退距離4m以上、後退距離に応じた最高高さのルール化 (D:H=1:2の範囲内)
- ②容積率：望ましい機能誘導に向け容積率の最高限度1,300%に
 - 沿道全体にわたり望ましい都市機能の誘導を図るべく、誘導用途、にぎわい形成、セットバック、防災・環境配慮等の積上げによる容積率割増を行う地区計画を適用 (容積率の最高限度; 1,300%)。ただし、0.5ha以上の区域では都市再生特別地区の適用により地域貢献に応じた容積緩和が可能。

●伝統を継承しつつ発展的なまちなみを形成する

- ③デザイン誘導：50m軒線の統一とデザインコントロール
 - これまでのルールにより形成されつつある50mの軒線の統一・壁面の連続性を継承しつつ、壁面の意匠や低層部のデザイン誘導をメリハリのあるものに
- ④仕組みの構築：行政指導から都市計画に基づく誘導へ。民間が主体となったエリアマネジメントの推進体制の構築
 - まちなみ指導要綱による指導から地区計画による誘導へ。よりきめ細やかなデザイン等のコントロールをガイドラインによりルール化。
 - 行政主導から民間主導への誘導へ徐々に転換。一定のデザイン誘導のもと民間活動の自由度を高め高質な都市デザインを実現する仕組みを構築し、あわせて、公的空間の利活用を図りつつエリアマネジメントの推進体制の構築を促進



① 将来像: 淀屋橋～本町・沿道

○上質なにぎわいと風格あるビジネス地区

・国際的な業務機能と上質なにぎわいが調和する、風格あるビジネスエリア

誘導方策

- オフィスビルの建替えを促進するため、良質なオフィス空間の確保や滞在・宿泊機能といった複合用途への対応が可能となるような形態制限等の緩和等、低層部へのにぎわい施設の導入促進のための容積ボーナス
- 既存ビル等への「上質な」にぎわい施設導入を促進するための経済的インセンティブ制度の創設
- まちなみの統一感を継承するとともに、足元でのヒューマンスケールなまちなみを誘導
- よりきめ細かな用途誘導・デザイン誘導のための第三者委員会等の設置等の検討やエリアマネジメントの実現



御堂筋沿道



御堂筋沿道のビル



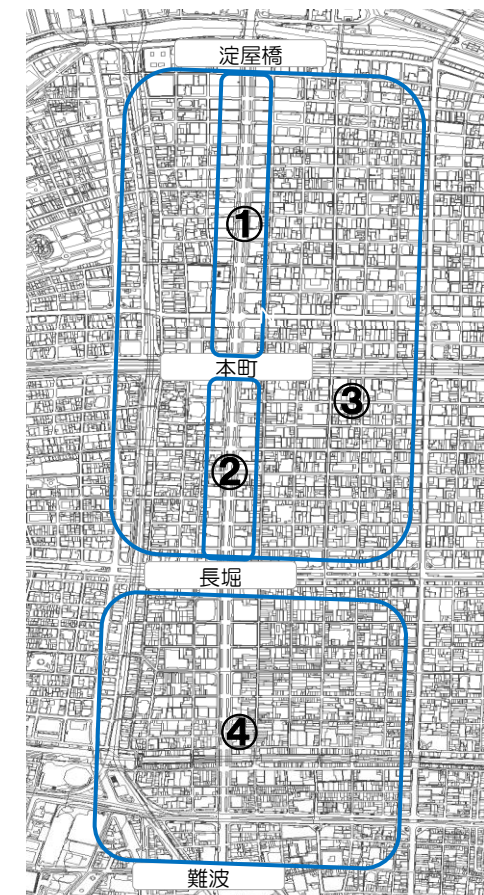
オープンカフェ



低層部のにぎわい誘導

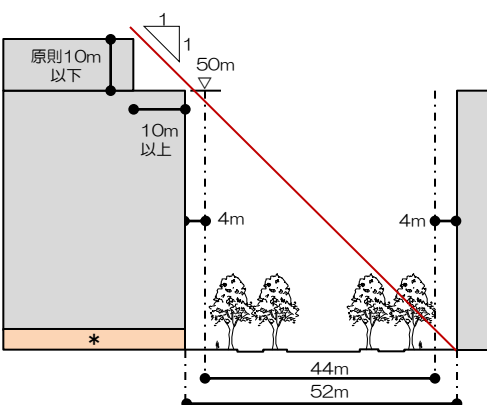


営業時間外のにぎわい演出



現在

今後



*金融系店舗、カフェ、コンビニ等が多い

オフィスビルの建替促進

良質なオフィス空間の確保や複合用途への対応

形態制限緩和等

統一感とヒューマンスケールのまちなみの誘導

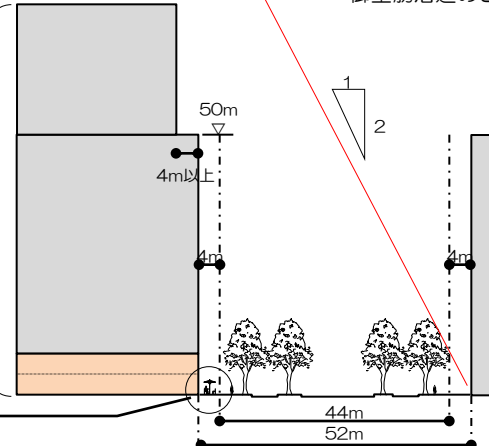
デザイン誘導強化

「上質な」にぎわい空間を積極的に誘導

容積ボーナス

経済的インセティブ

セットバック利活用



② 将来像: 本町～長堀・沿道

○特別な時間を愉しむことができる落ち着いた複合地区

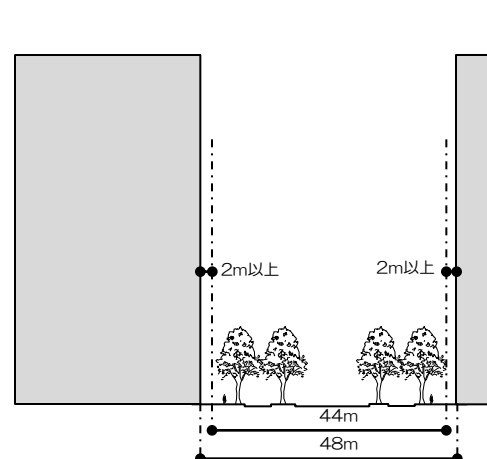
・特別な時間を愉しむことができる落ち着いた複合地区
・「淀屋橋～本町」間と「長堀～難波」間の機能が融合し、時代のニーズに合わせて表情を変える多機能複合空間。

誘導方策

- オフィスビル等の建替えに関して、低層部へのにぎわい施設の導入促進のための容積ボーナス
- 高層部にビジネスサポートとしてのグレード感のある高級賃貸レジデンスの導入を可とする。
- 既存ビル等への「高級な」にぎわい施設導入を促進するための経済的インセンティブ制度の創設
- 足元でのにぎわいやたまり空間など多様なオープンスペースを形成しにぎわいと憩いのあるまちなみを誘導
- よりきめ細かな用途誘導・デザイン誘導のための第三者委員会等の設置等の検討やエリアマネジメントの実現

現在

今後



オフィスビル等の建替促進

グレード感のある賃貸レジデンスの導入を可とする。徹底したデザインのコントロール

立体用途規定

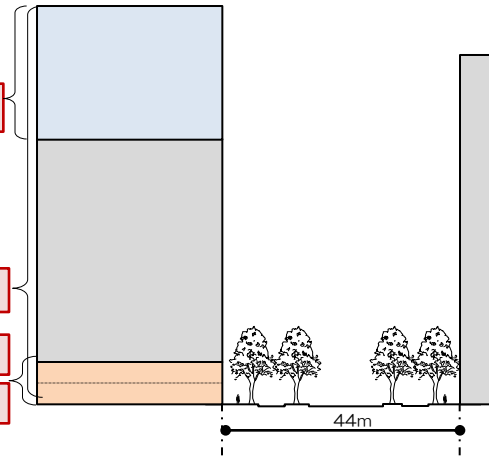
足元でのにぎわいや憩いのあるまちなみの誘導

デザイン誘導強化

「高級な」にぎわい空間を積極的に誘導

容積ボーナス

経済的インセティブ



③ 将来像: 御堂筋周辺(船場地区)

○船場スタイルとしての職・住・遊近接型のコンパクトな街

・船場スタイルとしての職・住・遊近接型のコンパクトな街
・歴史的資源や個性あるショップ等を、回遊して楽しめる街

今後の検討課題(例)

総合設計容積ボーナス制度による居住施設の立地を促進するとともに、
○敷地の共同化等に対するインセンティブの付与、駐車場附置義務の緩和、にぎわい施設の誘導策などを検討

④ 将来像: 長堀～難波

○大阪を代表する活力ある集客・観光拠点

・大阪の集客観光の核として、ファッション・商業、観光資源が集積する拠点。

【現在の地域における動き】

- エリア毎の特性を活かしたまちづくり団体の活動やルールづくり
〔例、なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会、宗右衛門町活性化協議会、心斎橋筋まちづくり協議会、久左衛門町及び三津寺町まちづくり協議会〕
- 道路空間の再編の検討(側道の利活用)



難波駅前にぎわい空間化(都市魅力戦略会議資料)

今後の検討課題(例)

○建築美観誘導制度による2m以上の壁面後退の扱いなどを検討

